

第19回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆

【大会要項】

2019年10月29日

- 1 目的 「明日の日本を担うグローバルな青少年を育てる」という教育視点より、
 - ① 野球競技を通じた青少年の健全な育成
 - ② 中学生の身体の成長段階を考慮し高校野球へのスムーズな移行
 - ③ 開催地の地域活性化への寄与 を目的とする。
- 2 主催・主管 一般財団法人日本中学生野球連盟
- 3 特別共催 アジア野球連盟(BFA)
- 4 共催 沼津市 熱海市 三島市 伊東市 伊豆市 伊豆の国市 清水町 (申請中)
- 5 特別後援 一般財団法人全日本野球協会(BFJ) 公益財団法人日本野球連盟(JABA)
静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会(E-Spo)
全国中学生都道府県対抗野球大会応援議員連盟
日本中学生野球連盟後援会・応援団の会
- 6 後援 スポーツ庁 静岡県/静岡県教育委員会 沼津市教育委員会 三島市教育委員会
熱海市教育委員会 伊東市教育委員会 伊豆市教育委員会 伊豆の国市教育委員会
清水町教育委員会 NHK 全国新聞社事業協議会 株式会社共同通信社 読売新聞社
静岡新聞社・静岡放送 公益財団法人全日本軟式野球連盟 (申請中)
- 7 協力 静岡県野球連盟 静岡県看護協会東部支部/熱海・伊東支部 日本大学国際関係学部
株式会社JT B 伊豆箱根鉄道株式会社 JSPORTS ヒューマンアカデミー株式会社
- 8 特別協賛 シダックス株式会社
- 9 協賛 ナガセケンコー株式会社 オリックス自動車株式会社 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
三島信用金庫 伊豆箱根バス株式会社 横浜ゴム株式会社 株式会社フジコー (順不同)
- 10 会期 2019年11月2日(土) ~5日(火) 予備日11月6日(水)
 - 11月1日(金) 17:00 開会式 「中伊豆ワイナリーシャトーT.S」 ※主将のみ参加
 - 11月2日(土) 9:00 一次リーグ第一日目 「各ブロック会場」 ※始球式
 - 11月3日(日) 9:00 一次リーグ第二日目 「各ブロック会場」
(第三試合終了後) ブロック表彰式 「各ブロック会場」 ※全チーム参加
 - 11月4日(月) 8:00 決勝トーナメント(準々決勝) 「伊豆志太スタジアム」
 - 11月5日(火) 8:00 決勝トーナメント(準決勝・決勝) 「伊豆志太スタジアム」
(決勝終了後) 表彰式・閉会式 「伊豆志太スタジアム」 ※決勝チームのみ参加(備考)一次リーグの全試合が順延なく消化された場合、11月4日に各会場にて決勝トーナメント進出以外のチーム同士による交流戦を実施する。参加希望チームは別途様式により申し込む。ただしマッチングは11月3日に大会本部が行う。

11 会場等

- (1) 開会式 「中伊豆ワイナリーシャトーT.S」〒410-2501 伊豆市下白岩1433-27 TEL 0558-83-5111
- (2) 競技
- | | | |
|-------|--------------|----------------|
| Aブロック | 熱海市民グラウンド | 熱海市上多賀1066-339 |
| Bブロック | かどの球場 | 伊東市鎌田1281-1 |
| Cブロック | 天城ふるさと広場野球場 | 伊豆市上船原1120-1 |
| Dブロック | 丸山スポーツ公園野球場 | 伊豆市八木沢1361-1 |
| Eブロック | 韮山運動公園野球場 | 伊豆の国市韮山多田860 |
| Fブロック | 大仁さつきヶ丘公園野球場 | 伊豆の国市浮橋1597-3 |
| Gブロック | 清水町営野球場 | 駿東郡清水町徳倉2222-3 |
| Hブロック | 伊豆志太スタジアム | 伊豆市下白岩1434 |
- (3) 大会本部 「ホテルワイナリーヒル」 〒410-2501 伊豆市下白岩1434 TEL 0558-83-2310
【大会本部直通】 TEL 0558-83-3867

12 出場チーム数 48チーム

- 13 出場資格 日本国内の中学校に在籍する生徒で、当連盟都道府県支部の定める方法により選抜、編成されたチームとする

14 チーム構成

- (1) チームスタッフ 団長1名 監督1名 コーチ2名以内 スコアラー1名(役職の兼任を認める)
- (2) 選手 20名以内 合計25名をチームの最大人員数とする。

15 競技規則

- (1) 2019年公認野球規則および大会特別規定による。
- (2) 大会特別規定は別に定める。
- (3) 使用球はM号ボール(赤ライン加工)とする。

16 競技方法

- (1) 一次リーグ 各ブロックに6チームを配し、二日間で各ブロック内の順位を決する。
〈順位決定に優先される条件〉 ①勝数 ②失点数 ③得点数 ④抽選
- (2) 決勝トーナメント 各ブロックの1位チーム×8ブロック=8チームで、二日間で準々決勝、準決勝、決勝を行う。 会場=伊豆志太スタジアム

17 組合せ

抽選は主催者による責任代理抽選とし、抽選結果は日本中学生野球連盟HPに掲載する。

18 諸会議

- (1) 監督会議 11月1日(金) 15:00 「中伊豆ワイナリーシャトーT.S」
- (2) その他必要により開催。関係者には主催者から連絡するものとする。

19 参加申込

- (1) 日本中学生野球連盟ホームページより手続書類をダウンロードし、**9月20日(金)までに**下記のメールアドレスに送信する。期日を過ぎる場合は必ず事前にその旨を連絡すること。
※書類の一部は大会プログラムの原稿等に使用するため、FAXでの受付はしない。

(2)

【参加申込】

日本中学生野球連盟 大会出場手続専用メールアドレス

MAIL **entry@jjbf.jp**

電話 03-3221-5072 担当:梅沢

連盟HP **http://www.jjbf.jp/**

20 交通宿泊費補助

出場チームに、大会本部が定めた金額を交通宿泊費の一部として補助する。金額や振込期日については、大会本部より各都道府県評議員に連絡する。

21 大会参加費

1チームあたり30,000円、参加登録選手1人あたり2,000円を、監督会議当日の受付時に大会運営本部に納入する。

22 宿泊・弁当・輸送については、「宿泊等手配要項」を別に定める。

- (1) 宿泊等手配要項に則り、大会期間中の宿泊・昼食(お弁当)・移動交通の確保に万全を期することを目的とし、チーム(団長・監督・コーチ・選手)の「宿泊・弁当」は大会公式旅行代理店の株式会社JTB スポーツマーケティング事業部 スポーツ営業第二課(第19回全国中学生都道府県対抗野球大会デスク)に期限内に申し込むものとする。なお、特別な事情がある場合は大会事務局に連絡する。「移動交通」については要望があればJTBが手配する。
- (2) 申込は、日本中学生野球連盟ホームページより申込書類をダウンロードし、**9月20日(金)まで**に下記のメールアドレスに送信する。期日を過ぎる場合は必ず事前にその旨を連絡すること。

【宿泊・弁当・輸送等申込】

株式会社 JTB スポーツマーケティング事業部

スポーツ営業第二課 第19回全国中学生都道府県対抗野球大会デスク

担当：池田・古澤・青山・森

MAIL jjbf@jtb.com

電話 03-5909-8676 連盟HP [http:// www. jjbf.jp/](http://www.jjbf.jp/)

23 試合のインターネット等によるL I V E配信

本大会の全55試合の中継映像を、大会特設サイトにてインターネットL I V E配信を行う(PC及びタブレット端末にて視聴可能)。また決勝トーナメントはJSPORTS(BS、CS)にて生中継を実施する。

詳細については大会特設サイト <https://jjbf-bbt.jp>

24 個人情報

大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、提供いただいた個人情報について適正に取り扱う。今大会における事務連絡、プログラム制作、連盟公認サイト及び同SNSへの掲載、インターネット及び衛星放送による試合の動画配信、報道関係機関への提供、宿泊施設への提供、記録や賞の発表、行政機関等からの問い合わせへの対応、その他大会運営に必要な範囲にのみ使用するものとし、大会参加者はこれに同意するものとする。

25 その他

- (1) 大会参加者は期間中の方が一の傷害に備え、スポーツ安全保険等に事前に加入してください。各自、保険証のコピーを必ず持参してください。
- (2) 開会式・ブロック表彰式・閉会式には、登録選手がユニフォームで参加。
なお、開会式は主将のみ、ブロック閉会式は全チームの全員、閉会式には決勝進出2チームの全員が参加してください。
- (3) カーナビゲーションに各会場の住所を入力した場合、正確な位置が表示されない場合があります。スマートフォン等の地図アプリや市販の地図等での確認をお勧めいたします。
- (4) 車イスでご来場の方、障害者手帳をお持ちの方は、各会場の競技責任者にお声掛けください。
なお、会場によって特別な対応がとれない場合がありますので、予めご了承ください。

お問い合わせ TEL 0558-83-3867(大会本部・梅沢)

【表彰】(案)

[優勝チーム]

文部科学大臣杯・富士山杯(静岡県知事賞)・優勝旗・優勝盾・賞状・優勝記念メダルを授与する。

- ① 文部科学大臣杯(文部科学省) 持ち回り
- ② 富士山杯(静岡県知事賞) 持ち回り
- ③ 優勝旗(日本中学生野球連盟) 持ち回り
- ④ 優勝盾(日本野球連盟)
- ⑤ 賞状(文部科学省、静岡県、日本中学生野球連盟、日本野球連盟、NHK、読売新聞社、静岡新聞社・静岡放送)
- ⑥ メダル(優勝記念の金メダル 選手、団長、監督、コーチ、スコアラーの25名以内)

[準優勝チーム]

準優勝杯・準優勝盾・賞状・準優勝記念メダルを授与する。

- ① 準優勝杯(日本中学生野球連盟)
- ② 準優勝盾(日本野球連盟)
- ③ 賞状(日本中学生野球連盟、日本野球連盟、NHK、読売新聞社、静岡新聞社・静岡放送)
- ④ メダル(準優勝記念の銀メダル 選手、団長、監督、コーチ、スコアラーの25名以内)

[3位チーム(2チーム)]

日本中学生野球連盟から賞状・盾を授与する。

[ブロック表彰]

各ブロックにおいてチーム表彰を行い、賞状を授与する。

[参加賞]

参加者の全員に参加賞を授与する。

[山本英一郎賞・志太勤賞]

大会で活躍した選手に授与する。

※山本英一郎・・・全日本アマチュア野球連盟会長、日本野球連盟会長などアマ球界の要職を歴任。野球の国際化に尽力し、志太勤・当連盟会長とともに世界への普及に多大な貢献をした。1997年、野球殿堂入り。2006年5月没。享年87歳。

山本英一郎賞は、氏の功績を讃え、第6回(2006年)大会より、大会で活躍した選手1名(選考)に贈呈される賞として制定された。

※志太勤・・・日本中学生野球連盟会長。中学生時代は軟式野球、静岡県立韮山高校進学後に硬式野球部に入部、投手。甲子園を目指し猛練習に励んでいたが、高校2年生のときに肩・肘を故障し野球を断念。夢を野球からビジネスに切り替え、シダックスを創業。そして2001年、「高校時代の辛い思いを、今の子どもたちに経験してほしい」という強い想いのもと、当連盟を創設した。志太勤賞は、第18回(2018年)大会より、大会で活躍した選手1名(選考)に贈呈される賞として制定された。

【大会特別規定】

2019年8月29日 制定

この規定を遵守徹底するよう、団長及び監督は責任者として心得る。

【試合前の事前準備、徹底事項】

1. (試合当日の到着時間)

チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会競技本部（以下、本部）に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。交通事情等やむを得ない理由で遅延した場合は、大会本部で対応を協議する。

2. (メンバー交換・攻守決定)

第1試合のメンバー交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は、前試合の4回終了後とし、当該チームが連戦の場合には、前試合終了後とする。各チームの監督及び主将は、所定のメンバー交換用紙（複写式）を持参し本部に提出の事。攻守決定はじゃんけんにて行う。

3. (ベンチ入りメンバー及びその服装・背番号等)

団長1名（襟付きシャツにチノパン等団長としてふさわしい服装もしくは背番号のないユニフォーム）、監督1名（背番号30、ユニフォーム）、コーチ2名以内（背番号28・29、ユニフォーム）、スコアラー1名（ジャージ等スコアラーとしてふさわしい服装）、選手20名以内（ユニフォーム）とする。

(注1) 審判員は、上記に従わない者に対して警告や退場を命ずる。その後も従わず悪質と判断した場合にはフ
ォフィッテッドゲーム（没収試合）とし、相手チームに勝ちを与えることができる [野球規則7. 0
3 (a)、(5)、(6)の適用]

(注2) 役職の兼任を認める。

4. (グラウンド内での装備品、ユニフォームの統一等)

事故防止及びグラウンドマナー徹底のために、下記遵守する。

(1) 捕手（ブルペン捕手含む）はマスク、レガーズ、ヘルメット、プロテクター、セフティーカップ、スロートガードを装備する。

(2) 打者・走者・ベースコーチ・ネクストバッタースボックス内の次打者・ボールボーイ・バットボーイはヘルメットを必ず着用。また、シートノック中にノッカーにボールを手渡す補助員も同様。

(3) ベンチ内でユニフォームを着用する者は、ユニフォーム上下、帽子、アンダーシャツ、ストッキング、ベルト、スパイク等すべて同一のもので統一する。

(4) 監督・コーチのサングラス着用を禁止する。

(5) 野手がサングラスを使用する場合は、試合前（メンバー交換時）に主催者・審判員に申し出て許可を得たものに限り認める。レンズ部分が著しく反射するものは使用不可。また帽子にサングラスをかける行為を禁止する。

(6) 団長・スコアラーのハーフパンツ着用を禁止する。

(7) バットリング、鉄棒等の球場への持込を禁止する。

5. (使用できるバット)

軟式用、硬式用、ローバウンドボール用の金属又は木製バットを使用する。ただし、飛距離を伸ばすために加工を施した以下のもの ①打球部に高反発素材を使用したバット ②ハーフ&ハーフ構造のバット は使用できない。

6. (ベンチの規定)

ベンチは、トーナメント表の若番（左側）のチームを1塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合は便宜上ベンチの入れ替えをしないことがあるので本部の指示に従う。

7. (試合前のアップ)

グラウンド内で行うウォーミングアップは、内野は使用しない。

8. (シートノック)

- (1) シートノックは後攻より行い7分以内とする。但し、状況によって短縮、省略することもある。
- (2) 参加登録選手全員で行うことができるが、ベンチ入りしない選手はシートノック終了後速やかにベンチから外れる。
- (3) シートノックの補助員(手伝い)は5名以内とする(ヘルメット着用)。
- (4) ノッカーは選手と同じユニフォームを着用する。

【試合中】

9. (競技上の特別規則)

9-1 (イニングおよび試合時間の制限)

イニングは7回まで、もしくは試合時間100分を超過した場合は新しいイニングに入らない。

ただし、試合は5回終了をもって成立する。

〈例1〉 A 2 0 0 0 0 0 | 2
B 0 1 0 0 0 # | #

→Aチームがリードした状態で6回表終了時点で100分を超過している場合は、6回裏は行い、7回には進まない。

〈例2〉 A 2 0 0 0 0 0 | 2
B 0 1 2 0 0 × | 3

→Bチームがリードした状態で6回表終了時点で100分を超過している場合は、6回裏は行わない。

〈例3〉 A 2 0 0 0 0 0 | 2
B 0 1 2 0 0 # | #

→Bチームがリードした状態で6回裏攻撃中に100分を超過した場合は、6回裏終了までゲームを継続する。

〈例4〉 A 2 0 0 0 0 0 | 2
B 0 1 0 0 0 2x | 3x

→Aチームがリードした状態で6回裏攻撃中に100分を超過し、Bチームが逆転した場合は、その時点でサヨナラゲームとする。

〈例5〉 A 2 3 1 0 # | #
B 0 0 3 2 # | #

→4回終了時点で100分を超過している場合は、5回(試合成立)まで行う。

(注1) 100分の計測は本部の時計を基準とし、試合開始と同時に試合開始時刻をアナウンスする。試合途中で経過時間のアナウンスはしないので、チームにおいても経過時間には十分留意しながら試合に臨む。

(注2) 天候・ケガ等による中断があった場合は本部の判断によりロスタイムとし、試合時間には算入しない。

(注3) 著しく時間が経過している試合については、本部ならびに審判員の判断によりゲームを打ち切り5回を終了していても試合成立とみなすことがある。

9-2 (特別延長戦)

7回終了もしくは100分を越えた回の裏の攻撃が終了した時点で、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は一死満塁の状態から行う(タイブレイク方式)

- (1) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順(継続打順)の者とする。
- (2) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が1塁走者、1塁走者の前の打順の者が2塁走者、2塁走者の前の打順の者が3塁走者となる。
- (3) この場合の代打及び代走は認められる。
- (4) 勝敗が決しない場合には以後継続打順でこれを繰り返す。
- (5) リーグ戦形式で、失点数や得点数が順位決定に優先される条件とされている場合は、特別延長戦における得失点数は算入しない。

9-3 (コールドゲーム)

コールドゲームは以下の場合に適用する。

- (1) 得点差 (5回7点差)
- (2) 暗黒や、降雨・雷などの悪天候

9-4 (試合の中断)

天候等 (降雨・雷・強風等) によって、試合の進行を中断することができる。

9-5 (サスペンデッドゲーム)

暗黒や、降雨・雷などの悪天候などにより試合途中で中止になった場合にはサスペンデッドゲーム (一時停止試合) とする。

- (1) 5回を終了しないで中止した場合、または5回を終了して両チームの得点が等しい場合は、翌日の第1試合に先だって続行試合を行う。
- (2) 5回を終了して中止した場合、その試合は成立したものとする。

9-6 (決勝戦の特例)

決勝戦は、7回終了時点で両チームの得点が等しい場合は9回までは通常の延長戦を行い、なおも勝敗が決しない場合は10回以降は特別延長戦を行う。また、100分の試合時間制限及び得点差によるコールドゲームは適用しない。

9-7 (投手の投球回数制限)

投手が1日に投球できる回数は7回までとする。ただし、特別延長戦及び決勝戦の延長戦の投球回数は算入しない。

〈例1〉 (特別延長戦に入った場合)

甲投手が7回投球完了し、特別延長戦に入った場合は甲投手はそのまま投球を継続してよい。

〈例2〉 (チームが1日に2試合行う場合)

甲投手が1試合目を7回投球完了し、乙投手が2試合目を7回投球完了して特別延長戦及び決勝戦の延長戦に入った場合は、乙投手はそのまま投球を継続できるし、甲投手も乙投手に代わって登板することができる。

〈例3〉 (イニングの途中で交代した場合)

1日2試合で、1試合目に甲投手が3回1/3投球して乙投手に交代し、乙投手は3回2/3を投球した。この場合、2試合目は甲投手は3回2/3、乙投手は3回1/3投球することができる。なお、3回0/3 (無死で交代した場合) は3回とみなす。

9-8 (守備側のタイムの回数制限)

- (1) 監督またはコーチが1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦 (タイブレイク方式を含む) は、2イニングに1回行くことができる。
- (2) 「監督またはコーチが投手のもとへ行く」との定義は、タイムを取るかボールデッド中にグラウンドに出て、ファウルラインを超えて投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える行動を示す。投手の方からファウルラインを超えて監督に指示を受けた場合や、伝令を使ったり捕手または他の野手に指示を与えて投手のもとへ行かせたりした場合も同様とする。これらはすべて審判員が判断する。
- (3) 監督またはコーチは同一投手のもとへ1イニングにつき一度行くことができる。
- (4) 監督またはコーチが1イニングに同一投手のもとへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合は、その投手は自動的に試合から退かなければならない。
- (5) 同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。

9-9 (攻撃側のタイムの回数制限)

攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦（タイブレイク方式を含む）は、2イニングに1回とする。

9-10(捕手または内野手が投手のもとへ行く制限)

- (1) 捕手または内野手が投手のもとへ行ける回数は、7イニング中に三度以内とする。
- (2) 特別延長戦及び決勝戦の延長戦となった場合は、2イニングにつき一度行くことができる。
- (3) 捕手または内野手が投手のもとへ行き、その後、その場に監督またはコーチが行けば、双方一度として数える。ただし投手交代の場合はその回数に含まない。
- (4) 集まることができるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令、監督またはコーチのみとする。
- (5) これらのカウントは、すべて審判員が行う。

9-11 (臨時走者)

突発事故が起きた場合に、審判員が必要と認めた場合は臨時走者を許可する。臨時走者は、投手・捕手を除く打順前位の者とする。

10. (選手交代の申し出)

選手交代の申し出は監督が行う。

11. (コーチスボックス)

監督・コーチはコーチスボックスに立つことができる。ヘルメット着用。

12. (ルール上で疑義が生じた場合)

試合中にルール上で生じた疑義は、監督が審判員に直接質問することができる。なお、円滑な競技進行と大会運営を執り行うため、争いがある場合は大会実行委員会が教育的観点に則り最終的に裁定を下す。

【その他事項、心構え等】

13. 天候による試合実施の可否については各チームに本部より連絡する。
14. メンバー交換用紙は、本部から配布されたものを使用する。
15. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはすみやかに所定の位置に着く。
16. 打者はみだりに打者席を外さない。監督やコーチのサインは打者席から見る。
17. 無用のタイムは慎み、試合進行に協力する。
18. テーピングは投手の指先は禁止、その他については審判員の判断に従う。
19. ファウルボールの処理は、両チームが行う。ボールボーイの役割は、原則として当日一塁側ベンチのチームが行う。
20. 本塁打を打った打者に握手やハイタッチ等を求めるために、ベンチの外に出てはいけない。
21. メガホンは監督、コーチのみが使用する。
22. 試合終了後は速やかにベンチを空ける。
23. 応援団は次の禁止事項を守る。団長及び監督は、責任を持って事前に指導する。
 - (1) 紙吹雪、紙テープ、個人名の入った幟（のぼり）などの使用。
 - (2) 「野次」など相手に不利になるような言動。
 - (3) 応援席のゴミの放置（施設管理者の指示に従い、チームが責任をもって処理する）。
 - (4) 鳴り物（太鼓やラッパなどの楽器）を使用する応援。
24. ユニフォームの着用が乱れた状態では競技に支障をきたし、また怪我につながるため、着こなしについて指導者は指導徹底する。
25. 試合間隔は20分間を目安としているが、準備が整い次第、ゲームを開始する。
26. 次試合の先発バッテリーに限り、メンバー交換後もしくは試合開始より1時間経過後、ブルペンを使用することができる。